

伊豆半島南部の地質

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鮫島, 輝彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005958

伊豆半島南部の地質

鮫島輝彦

本稿は静岡県南米局の要請により1954年に成された約20日間の踏査と、それ迄に行った断片的な踏査延約20日間に於て得られた知識を總括したものであって、地質図は予察的なものである。

伊豆半島南部は中新世下部の火山碎屑岩より成る湯ヶ島層群を基盤とし、これを部分的に覆って鮮新世下部の火山碎屑岩より成る白糸層群が存在する。中新世火山は天城火山の一部とその周辺の小火山、長九郎及び笠石の礫火山が存在するに過ぎない。

湯ヶ島層群 は上下二層に分け得られ、下部層は基性の輝石安山岩熔岩及び碎屑物より成り、全般的に変形作用(菅長石化、緑泥石化時に珪石及び方解石形成)を蒙っている。下部層の一部には火山物質を僅かに含む砂泥岩層が認められ、又一部には化石を含む不純な石灰岩が含まれる。又石英粗面岩及び流紋岩の大小の貫入体がありこれら岩体の附近に帯状に柱状作用を蒙っている事がある。

上部層は石英安山岩(緑色凝灰岩(片化面では白色を呈する事が多い)、片角集塊岩とこれら貫く石英安山岩脈)より成る。全般的に軽度の変形作用を蒙っている。湯ヶ島層群の走向は一般に東面に近いが局部的の変動が多く、殊に豊橋域北方と専良南方の地塊では北北東を示す。

湯ヶ島層群下部層より、仁科村入室名野では凝灰岩層中より長径5mm～7mm位の普通輝石結晶が採集された。岩科村雲母北方1km、南上村毛登野西方2km、白糸村繩池他数ヶ所では晶洞中より菱沸石、束沸石、輝沸石及びエピステルブ沸石の結晶を産する。

仁科村白川宝蔵院面北方300mに凝灰岩層に挟まれた石灰岩レンズが露出して居り、一部は二枚貝の堆積より成るShell limestoneであるが、一部は白色子ミツ貝で高層有孔虫 *Lepidocyclina angulosa*, *Amphistegina radiata* の他 Coral, Bryozoa, 小型有孔虫を認めた。又三坂村差田にも角礫凝灰岩に伴う石灰岩レンズがあり、巻貝・二枚貝を認める。白色子ミツ貝部を檢査した所主として Bryozoa, 石灰藻, Coral 及び小殻の小型有孔虫から成って居り、下白岩、梨本、白川の石灰岩に普遍に見られる *Amphistegina*

は殆ど存在しなかった。^{*}

石英粗面岩及び流紋岩岩脈は仁科村八重名野東方，岩科村雲見附近，波勝崎，南崎村大瀬と下流向，朝日村大賀茂南方1KM，南中村馬込附近より朝日村北部を経て下田町東方にわたり断続するもの，下河津村谷津の天嶺山等が主なるものである。本層中には多数の金銀鉱床，銅鉛亜鉛鉱床が知られているがこれらについては別の村誌に述べたい。

湯ヶ島層群上部層は構成物質が異り，変朽の度合いが低い事などで下部層と区別されるが両者の関係は確かめられなかった。不整合が存在する推定される。

岩科村八木山の東北方1KMに凝灰岩中にBalanus sp.のみよりなる石灰岩小塊を認めたと^{**}恐らく本層に属するものと考えている。本層中には石英安山の可成大規模な岩脈が，仁科村高島，三坂村二條・差田向，南中村馬込，竹麻村青市附近等に見られる。これらの岩体は通常著しい柱状節理を示す。又本層の石英安山岩質集塊岩中に小規模のマンガン鉱床が中川村小杉原，南上村下小野，三坂村蝶ヶ野に知られている。

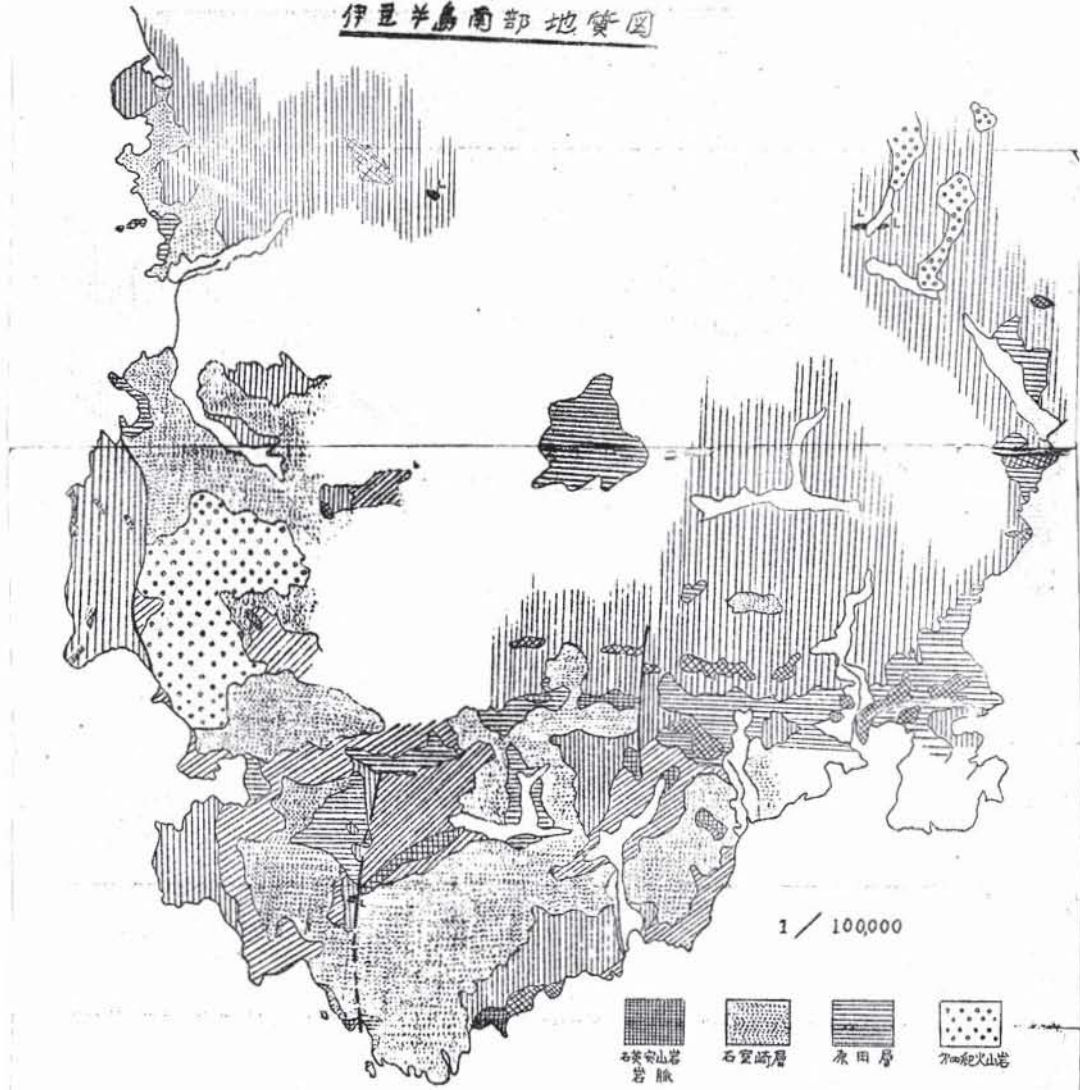
白糸層群 は湯ヶ島層群を不整合に覆う流紋岩質及び角閃石英安山岩質凝灰岩並びに輝石安山岩集塊岩より成る地層である。その内白色凝灰岩層は極めて断片的であるが広い範囲にわたって分布していてその相互の関係は多く不明であるが，岩相の特徴の一致，一般にゆるやかに傾斜している事，変朽作用を殆んど全く蒙っていない等の共通点から一応一括して白糸村の白糸層群原田層に対比した。

集塊岩層は集塊熔岩，集塊岩，火山礫岩及び僅かに凝灰岩を含む互層であって，主に地形的高所に分布する。本層の模式地を石室岬附近にとり，石室嶺層と仮称する。

原田層は仁科村堂ヶ島，岩科村岩地，南上村岩殿，同村下小野・上小野，三坂村善良，三坂村一色，南中村下賀茂，稻梓村知増野，朝日村大賀茂，白糸村原田，下河津村田中等其の分布は海岸附近の低地又は盆地内に多い。然し狭小な地塊は300m以上の山嶺上に独立して現れたりもする。本層は主として白色凝灰岩層より成り角閃石の長柱状結晶を含有する事がある。流紋岩質浮石を含む等があり，又時に著しく砂質な部分も認められる。朝日村大賀茂に於ては本層中に流紋岩熔岩流が存在する。しばしば斜交層理を示すが，層理が認め難い場合もある。この岩層は各地で石材として採掘されている。原田層の上部は整合的に輝石安山岩集塊熔岩が載る事が数ヶ所で認められ，更にその上を厚い同質集塊岩が覆う所がある。

〔脚註〕 * 西河津村誌 神鏡 仁人談話。 ** 下河津産を採集

伊豆半島南部地質圖



1 / 100,000

- | | | | |
|-------------|-------------|----------------|-------|
| | | | |
| 石英安山岩
岩脈 | 石室崎層 | 永田層 | 加波火山岩 |
| | | | |
| 瑞々層群
下部層 | 瑞々層群
上部層 | 石室崎層群
流紋岩岩脈 | 石灰岩 |

石室崎層はガラス等の稜輝石を主とする互層であつて、集塊岩、集塊岩、火山礫岩及び時に白色凝灰岩を含む。石室崎附近では同層岩の多数の岩脈を認める。本層の分布は相当に広く、模式地である石室崎北方の山地一帯を示める許りでなく、朝日村、南中村、三坂村、三津村、岩科村の山地を覆い、又田子村より松崎町に到る海岸附近にも分布する。本層の構成物の過半は陸上堆積物であるとみられ、層厚は模式地北方では500m以上に達する。こゝでは走向はほぼ東西に近く、傾斜は局部的に変化が多いが長津呂附近では南、北方山地では北落ちてゐる。

本層は各所で直接湯ヶ島層を覆つてゐるのが観察される。前述せる如く原田層の上部に整合的に重なる事が、田子村、湯ヶ島、南中村、岩殿、其の他で観察され、一方、岩科村、湯ヶ島東方、岩科村、三坂村、中木、其の他では原田層に不整合的に覆はれる事が観察されるので本層の堆積期間中に原田層の堆積があつたものと考えねばならない。

即ち石室崎層構成物噴出の経過の比較的初期に起つた部分的海進の際原田層の堆積が行はれたものであろう。

才千紀火山の内長九郎火山は充分な踏査を行つていないので別の機会に述べたい。蛇石火山については文献を参照されたい。

天城火山南部は湯ヶ島層が広く露出し、鉢、山他数個のオリブ石玄武岩を噴出した小火山体が存在する。これ等小火山の活動は極めて新しい時代に及んでいて、これらと天城火山の寄生火山と併ぶよりは、先原火山群と共に先原・天城小火山群として取扱うのがよいと考える。

厚ほ稲埴村、三坂村等の山地の頂部に僅に残存してゐる火山岩の碧岩流が認められるが(地質図には記入してない。)これらは^V才千紀初頭の噴出によるものかも知れない。

参 考 文 献

- 神津俊佑 (1913) 伊豆国南部地質略説 地質報 No.38
 田山利三郎・新野弘 (1931) 伊豆半島地質概報 青森報 13号
 渡部景隆・見上敬三・鈴木信 (1952) 白染層群の堆積状況—下田町東方の地質
 地質誌 58巻 93頁
 田村彰司 (1953) 伊豆半島に於ける *Lepidocyclina* の新産地
 地学しずは No.7



(18)

藤本治美 (1953) 「関東地方」増補版 301頁

六浦通玄 (1954) 磐石火山及其の附近の地質 - 卒論手記

鯨島輝彦・六浦通玄 (1954) Jaishi Volcano, South Izu

静大文理紀 No.5 P.43

沢村幸之助 (印刷中) 1/50,000 地質図中修善寺及同説明書

(注) 本誌に使用した町村名は最近の町村合併以前のものである。